

小学 3・4 年生、小学 5・6 年生・探究(総合的な学習の時間)

## 地球に生きる一人として自ら問いをもち、我が事として探究する児童の育成

指定校 1 年次 学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ小学校 尾形 望

### (1) 本年度の N I E 活動の概要

本校は、学校教育法第 1 条に規定する私立学校であり、2022 年度から国際バカロレア (IB) プライマリーイヤーズプログラム (PYP) を導入したカリキュラムを編成し、2024 年 1 月より正式に国際バカロレア校として認定された。IB では、国際的な教科横断型の探究学習プログラムを構築しており、本校はその基準に沿って、計画的な探究の学びを推進している。また、学園理念に掲げる「五感・自律・共生」の実現を目指して、飯綱の豊かな自然環境を基盤に探究の種を見つけ、身近なことから問いを持ち、我が事として探究していく子どもを育むため、日々の教育活動に取り組んでいる。

本年度は、探究の学びの推進に NIE の活用を取り入れることで、より一層世の中の事象や事実について正確に情報を読み取り、我が事として向き合うための素地を養いたい。そのために校内の NIE 環境を整え、全校研究として探究学習に限らず、各学年各教科の中における新聞活用について取り組んでいくことにした。

### (2) 本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は全児童数 25 名、複式単学級の 3 学級である。本年度は、NIE 研究対象学年を 3・4 年生、5・6 年生の 2 学級とし、探究学習における新聞活用について取り組んだ。本校児童の傾向として、何か知りたいことがあればすぐに ICT 端末を開いてインターネット情報にアクセスすることが日常となっていた。インターネットを使用すれば、知りたいことの答えがすぐに手に入る即時性や利便性を優先するがために、その情報源の正確性の確認、情報の多面的な捉え方に至らずにいた。また、インターネット以外の情報源の活用がなかなか進まず、特に新聞に関しては、購読している家庭が極端に少ないこともあり、触れる機会そのものが希薄であった。そのため新聞の価値に気づいたり、探究の資料として有効に活用したりすることがほとんどない現状であった。教職員も日常的に新聞に目を通す習慣がなく、新聞を活用した教材研究、授業展開という意識が薄かった

### (3) N I E 活動の狙い (育てたい力)

本年度は、校内の身近な場所でいつでも新聞を目にし、気になる記事を読める環境を整え、日々の授業に意図的に新聞を活用するように仕組むことにより、教職員及び子どもたちが新聞の価値に気づき活用できることを目指した。

### (4) 公開授業以外を含めた N I E の取り組みの状況

児童、教職員にとって新聞がより身近な存在として感じられるように、大きく以下の 2 点について、年間を通じて全校で取り組んできた。

## ①新聞環境の整備

### ア.職員室前廊下での「新聞コーナー」の設置

職員室前廊下には、無料提供頂いている数社のその日の新聞を展示し、児童生徒と教職員がすぐに手に取り閲覧できるようにしている。新聞台には特に注目させたい新聞記事を広げて掲示をしている。また、前日の新聞は新聞ラックに新聞社ごとにまとめ、前日までのものはすぐに広げて読めるようにしている。合わせて、一ヶ月分の新聞は棚の中に新聞社ごとに置かれており、バックナンバーも必要に応じて探せるようにした。

### イ.ホール入口(図書スペース前)での新聞スクラップの掲示

学校の取り組みや行事と関連のある新聞を、担当職員がスクラップし注目させたい言葉、考えさせたい問いかけを添えて継続的に掲示を行っている。最近の社会事象に限らず、面白いグラフィックや漫画を掲示することで、新聞記事が難しそうというハードルを下げ、低学年も足を止めて話題にしやすくしている。また、児童生徒が応募したコンクールなど本人の名前が掲載された場合は、新聞がより一層身近なものに感じられるように、その新聞を掲示し紹介をしている。

## ②新聞の教材化ならびに活用

### ア.教職員の NIE に向けた意識付け

本校では NIE 研究の開始から、非常勤講師を含めた全教職員で NIE 研修を行い、すべての学年の担任と専科教員が、自分の授業において新聞を活用していこうとする意識づくりに取り組んだ。夏の職員研修では、「新聞の教育的価値」をテーマにしたグループディスカッションを行い、教職員それぞれの考えについて共有した。その上で各教科にどのように活用していけるか等、具体的な学習アイデアを提案しあった。

### イ.各学年の実践

・1・2年生は体育の時間に、新聞を使っていろいろな動きを学ぶ授業を行った。図工の時間には、新聞をちぎって遊んだり、ねじったりして遊び、探究の時間にはみんなで協力をして新聞で大きな輪を作り、それを活用した楽しい遊びを考えた。新聞という素材を加工することを通して親しみを持とうとしている。さらには探究学習「平和と紛争解決」の単元で新聞を活用し、新聞の写真から平和だと感じる写真とそうではない写真を探す活動を行った。その活動から、新聞には今起きていることが載っていることに気がついた。見つけたものをじっくりと見ることが習慣化されたことにより、新聞の中から写真や絵、活字を言葉として見分ける力がついてきている。今後も学習に新聞を取り入れることでより素材としての新聞の特性が分かることを目指す。

・3・4年生は様々な教科の中で新聞を取り入れている。国語のスクラップブック作りでは、各自が新聞記事を読み、興味のある記事を見つけ、スクラップにし、お互いに見合う活動を行っている。授業で話題になったことに関連記事を見つけて切り抜いたり、自分だけの表紙を新聞から切り取ってコラージュしたり、少しずつ新聞に意識を向け始めた。また、「新聞をつくろう」と題して、新聞がいかにして情報を伝えているのか、また、適切に情報を伝えるためにはどのような工夫が必要なのかを知るねらいで、夏休み前までのクラスの出来事などを知らせる新聞を作ることに取り組んだ。図工では素材として新聞を取り扱い、新聞から色を集めてちぎり絵を体験しお世話になった方への御礼状を作った。体育では、破いたり広げたりできる新聞紙の

特性を活かして遊びを考える面白さを味わうなど、教科の学びを通して新聞が身近なものになりつつある。

・5・6年生では、探究の学習の一環で信濃毎日新聞本社の見学を行い、新聞の歴史や新聞が発行されるまでの流れについて学習を深めた。国語では、インターネットから得た情報を鵜呑みにする傾向のある児童に対し、新聞記事に書かれている内容を事実と意見に分けて読む学習に取り組んだ。その記事が読者に何を伝えようとしているのか見極め、情報を客観的に整理することを学んだ。国語でも社会でも「信濃毎日新聞学習シート」を適宜活用し、時事問題に対して関心を持つことを目指している。また、家にある新聞や職員室前廊下に展示されている新聞から、探究内容に関係する新聞記事を見つけ、紹介する活動の習慣化に取り組んでいる。

### (5) 公開授業などの活動内容

#### ①3・4年生 単元名「救え！わたしたちのりんご園！」(探究学習／全45時間)

○小単元名 「今年の夏の天気は、他の農家さんたちにどのように影響しているだろう」

#### ア. ねらい(主眼)

農家さんへの取材をまとめる活動から「他にも今年の天気によって困っている農家さんはいるのか」と考え始めた子ども達が、新聞記事から日本の様々な作物を育てる農家さんたちの今年の状況や苦労を探して読むことを通して、気候変動が進む中でこれまでと同じように農業を進めていくことの困難さを知る。

#### イ. 指導上の留意点

- ・新聞記事を読む活動は、個人で取り組んでもグループで取り組んでもよいことを示し、一人での取り組みが困難な児童に対しては、必要に応じて教師が読み方の支援をする。
- ・数種類の新聞の関係記事に付箋を貼っておき、子どもたちが記事を見つけやすくする。

#### ウ. 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・評価	時
	◎子どもたちの問い 「渡辺さんや和田さんが困っている今年の天気で、他の農家さんも同じ様に困っているのだろうか？」			
導入	1. 前時の学習で気づいたことを共有する。	A 児が前時の学習から疑問に思ったことについて全体で共有する。 「オレンジ以外にも足りていない食べ物があるのか？」 「予想と違ってりんごだけじゃなく他の作物についても記事があったよ！」 「他にも見つけられるかな？」	・前時のワークシートから、新聞から情報を読み取ることが有効かどうかを確認し、自分たちの予想を確かめるために、さらに新聞を使っていくことを確認する。	2
展開	2. 自分で必要な新聞を選ぶ。	(新聞を選ぶ活動) ・いくつかの新聞を読み比べながら、どの新聞が良さそうかを選ぶ。 ・一人で選ぶ、協力して選ぶ。	・新聞を自分の力で一から探したい児童と探すが困難な児童とで、用意する新聞の種類を変え、声掛けをする。 ・新聞は、児童の読む能力に応じて適切	10

	<p>3. 選んだ新聞記事を切り取り、線を引きながら読む。</p>	<p>「この写真なんか関係ありそう！」  「りんご以外にもいろいろありそうだ」  「いいやつが見つからないよ」  「こっちによさそうなのがあるよ！」  「これ一緒に読んで見る？」  <u>(新聞を読む活動)</u>  ・ハサミとのりを用意して、選んだ新聞記事を切り取り、ワークシートに貼る。  ・自分が選んだ記事に線を引きながら読む。  「りんご以外にもこんなに大変なんだ」  「どれどれ見せて！」</p>	<p>に選べるように複数社用意しておく。  ・新聞を選んだら必要な部分を切り取り、それ以外の部分は畳んで片付けられるように場所を確保する。  評価規準 新聞記事の写真や見出しに注目し、自分の知りたい事実と関連付けながら情報を集めている。</p> <p>・新聞から記事を選び読む際には、新聞から分かる「事実」とそこから想像できる農家さんの想いを分けて考えられるように、2種類の色ペンを使い分けて文章に線を引くように促す。  評価規準  新聞から、事実の部分を正しく読み取ることができる。</p>	15
	<p>4. 読んで分かったことなどをまとめる。</p>	<p><u>(考えをまとめる活動)</u>  ・読んだ記事について、ワークシートをもとに事実や考えをまとめる。  ・「これからも暑すぎる夏になったら、農家さんはどうなってしまうのかな」  「長野ではもうりんごはとれなくなってしまふんじゃない？」  「せっかく苦労して育てたりんごや作物がダメになってしまったら悲しいよね」  「気候変動はどうして起きてしまうのだろうか？」</p>	<p>・記事から読み取った事実から、農家さんたちの想いを書いてみることで、気候変動が進んでしまうと困る人がたくさんいるのではないかと想像させる。</p>	10
<p>まとめ</p>	<p>5. 本時を振り返る</p>	<p>『今年の天気で困っているのは渡辺さんや和田さんだけなのか？』  「違ったよ！たくさんあった！」  「他の人が何を読んだのか気になる！」</p>	<p>・次時に、新聞からどんなことが分かったのか、自分は何を考えたのかを共有することを確認する。</p>	2

### エ. 教師自身が実践から学んだこと

・児童が自ら新聞を読み深めることは難しいと思っていたが、児童の中に明確に「知りたいこと」があり、それについて何かヒントが得られる記事と出会った時、児童は難しい文章もじつくりと読み深める姿あった。「新聞は難解で子どもには難しい」という思い込みを無くし、新聞を取り入れることの必要性を感じた。

②5・6年生 単元名「クマが困っている？どうする人間！」（探究学習／全44時間）

○小単元名「私たちは『目に見えていないもの』をどのように捉えたらよいだろうか？」

ア. ねらい(主眼)

クマと人間の両方の立場に目を向けはじめた子どもたちが、人間を主語にした新聞の記事をクマの立場になって書き直すことを通して、今後自分たちの生活がどうあったら良いのか、問いを持ち始める。

イ. 指導上の留意点

- ・ 仮装を用意しておく。首から下げる。出来るだけクマ意識を持たせる。
- ・ 社説を用いるが、全文ではなく部分的に扱う。

ウ. 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・評価	時
導入	1. 今日の学習課題を確認する。	「そうそうクマになるんだよね」 「クマが新聞書くのか」	・クマカードを全員がつける。	3
展開	2. 記事の内容を、クマを主語にして書き換える。	・A児は記事を選ぶところから関わり、安心して書けるようにする。 ・B児には、元の文を参考に、クマだったらと声がけして想像できるように助言する。 ・クマの視点で書いている子どもたちを認める。 ・「山にない時にはちょっと下りると見たことのないようなものの中に柿や栗の木がある」「実のなっている木が多い」「少し遅れていくとなくなっているから早めの方がいいよ」	・クマ新聞が書けるワークシートを活用する。 ・書き換えるポイントを明確にしておく。  評価規準:クマの気持ちに自分の考えを結びつけて考えを発表することができる。	20
	3. 発表する。		・名前を呼ぶ時には「クマ記者」であることを意識して問いかける。 ・それぞれの発表の後、クマの立場から質問するよう働きかける。	17
まとめ	4. クマ側の主張から、私たちが学ぶべきことを明らかにする。社説の最後の段落の文章を投げかける。	「私たちのくらしがクマに与える影響ってたくさんあったんだな」 「クマだって本来は臆病な動物なんだから、好んで人里に下りてきているわけではないんだ」	・「人の側が知恵と工夫を重ねたい」という部分について子どもたちがどうして良いか迷うことを期待する。	5

エ. 教師自身が実践から学んだこと

・ 授業やその教材準備で新聞を扱ったことにより、「社会の中の自分」という意識がより強くなった。また、授業に活かすことを意識して紙面全体に目を向けたことで、関心のある事柄だけではなく、あまり接点のなかった記事と出会い、教材化の幅を広げてくれた。

## (6) 児童の反応と成果、2年次研究への課題

### ① 児童の反応と成果

#### ○ 新聞から問いを掴み、深める姿

- ・インターネットでの情報収集とは違い、一つの記事にじっくりと向き合う経験を通して、新聞記事の信頼性や情報を多面的に読み解くことができた。
- ・新聞に書かれている事実から、人物の背景や心情に想いを巡らせ、他者の目線で記事を考えてみるできるようになってきた。
- ・「問い」を解決するために、内容の読み取りが難しい記事であっても、同じ内容を報道した他の新聞記事と読み比べたり、写真を比較したりすることで自分なりに理解しようと工夫する姿が見られた。
- ・新聞の中に出てくる表現や言葉で分からないものがあつた時は、国語辞典やインターネット検索などでその意味を調べて、分かった上で繰り返し文章を読む習慣ができた。

#### ○ 新聞の価値に気づく姿

- ・新聞記事を読み解くことを通して、記事は事実と意見を分けて書かれていること、考えを書く際にはその根拠となる事実があることにより、説得力が増すことに気づいた。
- ・新聞には、自分たちが今世の中で起きていることの実事が明確に書かれており、複数の新聞社の記事を比較することで、多角的な視点にたった事実の捉えができることに気づいた。

### ② 2年次研究への課題

#### ○ 新聞活用の日常化

- ・全学年で日常的に新聞に親しむ活動や学習に取り組み、授業での更なる新聞活用のあり方を探る。
- ・本年度は児童が新聞を目にしやすい場所に置く環境を整えた。しかし、置いておくだけではなく、必要に応じて新聞を持ち出したり、記事を切り抜いたりできるように、児童がより良い学習に活かしやすい活用の仕方を検討する。

#### ○ 新聞の教材化

本年度は授業において、新聞を読んだり使ったりすることを目的にした。今後は、児童が我が事として捉えられる切実感ある問いに出会うための新聞活用も視野に入れた教材化について、学校全体で検討していく必要がある。